令和３年度　大分市立津留小学校　学力向上プラン　　2学期

取組番号⑦

学校教育目標	共に生き、共に学び、共に汗する　心豊かな　津留っ子の育成
育成を目指す資質・能力	○基礎的な学力の定着　○思考力・判断力・表現力の育成　○学びを活かす活用力の向上

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【大分県学力定着状況調査】 ・国・算・理いずれも正答率が、全体・知識・活用ともに県平均よりかなり高い。達成率も、県平均を大きく超えている。 ・無解答率が低く粘り強く取り組んでいるが、理科は単元によって誤答率が高いものがある。 【単元末テスト】 平均点　国88点　算87点　理87点　社86点 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 ・児童アンケートで、ペア・グループトーク87%に対し、全体の場で進んで発表と回答した児童の割合が67%であった。 ・教師アンケートで、「前時のふりかえりから次時のめあてを導き出している」という項目が2.9であった。	1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・70点代の児童が少なく、正規分布ではない。B層の引き上げが課題。 ・国語は「話し合いの内容を聞き取る」がやや苦手。 ・算数は記述問題の結論まで書いていない誤答率が高い。 ・理科は単元による正答率のばらつきおよび後半の無解答増加の対策として、正答率が低い単元の復習と時間配分の指導が必要。 2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 ・机間巡回して子どもの思考に沿った指名をしたり、ペア・グループトークのバリエーションを広げ効果的な活用を仕組んだりすることで、協働学習に取り組ませる必要がある。 ・話型を活用し、授業の後半の練り合う場を活性化させ、子どもの言葉でまとめを導き出す表現力を培うよう働きかけが必要である。 ・学習の連続性を意識して単元計画を立てることを意識付けさせる必要がある。
指導の状況	1　組織的な授業改善の取組状況 ・知育部を中心に算数教育の校内研修を充実、深化するとともに、年3回の提案授業の研修を軸にして、短期PDCAサイクルで検証・改善を繰り返し、取組が進んでいる。 2　その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学習規律の徹底をはかるとともに、「互いを認め合い、友だちとなかよくできる子の育成」「進んで体力づくりに励む子の育成」との相関を意識し、「生徒指導の3機能」を取り入れた授業改善に組織的に取り組み、基礎基本の力を発揮できる子の育成につながる授業実践に努めている。	

学力に関する達成指標	○国語・算数の単元末テストの平均正答率を85点以上、理科・社会の単元末テストの平均正答率を80点以上にする。 ○全体の場で進んで発表できる児童の割合を80%以上にする。 ○ペアやグループ活動の時、自分の考えを説明できる児童の割合を90%以上にする。

次年度の具体的な取組

【授業改善】

（授業改善のテーマ）
子どもの表現力を培う授業づくり
（授業改善の重点）
1．指導と評価の一体化
2．協働によって自己の考えを広げ深めたり、新しい価値を構想・創造したりする授業づくり

（取組内容）
PDCAサイクルを通して、指導と評価の一体化を図りつつ、児童の実態を踏まえてよりよい授業実践を行う
例：課題を追究して解決する活動を通して問題解決に必要な資質・能力が育成できるような学習活動を設定する。児童の学習状況を的確にとらえ、指導・支援を行ったり指導方法を修正したりする

（取組指標）
○学年で以下のことを共通理解する
・授業の「ねらい」を明確にし達成状況をみとるための具体的な評価規準を設定することで、児童の資質能力を育成することができたか

（検証指標）
○単元末テストの平均正答率が国語・算数85点以上　理科・社会80点以上
○アンケートで「授業がよく分かる」と回答する児童の割合が90%以上

（取組内容）
話型を活用し、考えを交流させることで、学びを深化させる
例：考えの理由や根拠を問う発問を心がけ、意図的指名をすることで対話的学びを充実させるとともに、考えが深められていく過程が表れるように板書の構造化を図る。話型やホワイトボード等を使って互いの考えを伝え合う場を工夫する

（取組指標）
○学年で以下のことを共通理解する（公開授業・互見授業等）
・協働によって自己の考えを広げ深めたり、新しい価値を構想・創造したりする場面があったか
・ICT・ホワイトボード・グループトーク・話型などの活用が、表現力の向上につながっているか

（検証指標）
○「ペアやグループで自分の考えを説明することができた」と回答する児童の割合が90%以上
○「全体の場で進んで発表することができた」と回答する児童の割合が80%以上

【家庭・地域との協働】

（達成指標）
学習習慣の土台を築く

（家庭・地域の取組内容）
「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の徹底

（家庭・地域の取組指標）
・宿題は必ずやり遂げたかを確認する
・全ての家庭で、テレビを見ながらの学習はさせない

（検証指標）
○「宿題を忘れずにすることができた」と回答する児童の割合が90%以上
○「子どもは家庭学習の習慣がついている」と回答する保護者の割合が90%以上

【その他の学力向上の取組】
○各学年部における共通理解事項を組織的な授業改善の視点から、知育部会で検証・改善する。（短期PDCAサイクル）
○互見授業及びレベルアップ講座を開催し、授業力を高め合う
○B層・C層の引き上げについて、個別や習熟度別に学習できる場をつくりさらに充実させる

今年度中の取組内容	○児童が引き受けるめあて及び追究課題を提示する。 ○交流を活発化させる発問をし、交流場面で、自分の考えを書いたり発表したりさせる。